

「立山黒部」の保全と利用を考える検討会

第1回検討会資料

平成28年11月13日

富 山 県

観光・地域振興局
生活環境文化部

1. 本検討会の趣旨

- ・ 「立山黒部」は、日本でも類を見ない自然環境が存在する山岳地として、自然環境の保全活動が先進的に行われるとともに、利用の面においても国内外から多くの観光客が訪れる観光地としてその地位を確立してきた。
- ・ しかし、訪日外国人の増加や個人旅行客の増加、北陸新幹線による首都圏とのアクセスの劇的な改善等、「立山黒部」を取り巻く環境は大きく変化している。このような変化を適切に把握し、柔軟かつ迅速に対応していくことが、これからも「選ばれる観光地」であるための条件である。
- ・ 特に、「立山黒部」を世界遺産に登録する動きがあり、また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて訪日外国人のさらなる増加が見込まれている。
- ・ こうした国内外からさらに多くの観光客が訪れる日が来た場合、その観光客に満足していただける観光地となっているのかを今一度考える必要があるのではないか。
- ・ そのため、日本はもとより、世界中の人々に「行ってみたい」と思ってもらえる観光地となるよう、「立山黒部」の現状を今一度把握し、「世界ブランド」としてさらなる高みを目指すための方策を検討することとしたい。
- ・ なお、検討にあたっては、「立山黒部」は国立公園内に位置し、自然環境の豊かさが魅力の中心であることから、単に観光地としての開発のみを考えるのではなく、適切な自然環境の保全を行うことを前提に検討することとしたい。

1. 本検討会の趣旨
- 2. 立山黒部の概略**
3. 立山黒部の魅力
4. 立山黒部の現状と課題
5. 今後のスケジュール

2. 立山黒部の概略（2）歴史①

年号	西暦	出来事
		古来、立山は「神々が宿る山」とされ、 山岳信仰 の対象になっていた。人々は、山に立ち入ることを慎み、山麓に社を設けて拝み見ていた。
天平19年	747	大伴家持 が立山賦（長歌）及び短歌2首を詠む。 「立山（たちやま）に 降り置ける雪を 常夏に 見れども飽かず 神（かむ）からならし」 万葉集
平安時代		仏教が社会に広まるにつれ、山岳信仰と仏教が習合。立山も修験道の霊場として知られるようになる。平安中期からは、地獄思想が入り込み、「今昔物語集」にも「立山地獄」が取り上げられる。
鎌倉時代		阿弥陀信仰の影響を受け、山中に阿弥陀如来の 浄土と地獄 が併存すると信仰されるようになる。
鎌倉～江戸		「立山開山縁起」 が成立 大宝元年（701年）、 越中国司・佐伯有若（ありわか）の子の有頼（ありより） が、 白鷹（はくたか） を追って山に入り、出合った熊に矢を命中させた。傷口から流れる血をたどって洞窟に入ると、胸に矢が刺さった阿弥陀如来の姿があった。立山を開くようにとのお告げを受けた有頼は、出家して名を慈興（じこう）と改め、立山開山に尽力した。
江戸時代		立山山麓の岩嶽寺（いわくらじ）、芦嶽寺（あしくらじ：いずれも現中新川郡立山町）の衆徒が全国に出向き、立山信仰を広める。両集落は、全国から集まる立山登拝者の 宿坊 の町として賑わう。 立山は女人禁制の地とされ、女性の立山登拝は禁止されていたため、女性が生前の罪や穢れを浄化し、死後の極楽往生が約束される儀式として 「布橋灌頂会（ぬのばしかんじょうえ）」 が芦嶽寺で行われる。
安政5年	1858	飛越地震が発生。立山連峰の鳶山（とんびやま）が崩壊し、 立山カルデラ に大量の土砂が流れ込む。常願寺川をせき止めた土砂の決壊により、土石流が富山平野を襲う。
明治維新		神仏分離令により廃仏毀釈の気運が高まり、立山信仰が衰退
明治5年	1872	立山の女人禁制が解かれる。以後、国内をはじめ英国などの登山愛好家が立山を訪れる。
明治39年	1906	立山カルデラで県営の砂防工事事業を開始
明治40年	1907	陸軍参謀本部陸地測量部の測量官 柴崎芳太郎 が 劔岳 に登頂し、三角点を設置
大正8年	1919	黒部川の電源開発 による日本最初のアルミ精錬所建設をめざし、 高峰讓吉 らが東洋アルミナム（株）を設立
大正11年	1922	東洋アルミナムにより黒部温泉会社が設立。黒薙の温泉権利や、無人の荒れ地であった桃原（ウナヅキ平とも呼ばれた）の土地買収など、 温泉地開発に着手

2. 立山黒部の概略（2）歴史②

年号	西暦	出来事
大正11年	1922	高峰讓吉死去。東洋アルミナムの全株式を日本電力に譲渡
大正12年	1923	日本電力が、 黒部川の水力発電工事 に着手(宇奈月～猫又間の工事用軌道の開削に着手) 黒薙温泉から 宇奈月への引湯管が完成
大正15年	1926	立山カルデラの砂防工事が、 国直轄事業 へ移行
昭和12年	1937	黒部峡谷の鉄道が 樺平まで開通
昭和26年	1951	電気事業が再編され、9電力会社が設立。黒部川水系は関西電力株、常願寺川水系は北陸電力株にそれぞれ帰属
昭和27年	1952	第一次富山県総合開発計画 策定(⇒美女平～室堂間の自動車道路建設へ) 立山山岳地域の観光交通体系整備を目的として、富山地方鉄道株、関西電力株、北陸電力株の3社により、 立山開発鉄道株 (TKR)設立(佐伯宗義社長:芦峯寺出身)
昭和28年	1953	黒部峡谷の鉄道について、関西電力が、地方鉄道業法の許可を得て、観光用列車として営業運転開始
昭和29年	1954	立山ケーブルカー 開業(TKR)
昭和30年	1955	立山高原バス 運行開始(美女平～弘法:TKR)
昭和31年	1956	関西電力が 黒部ダム ／ 黒部川第四発電所 、北陸電力が 有峰ダム の建設に着手。 弥陀ヶ原ホテル 開業(TKR)
昭和33年	1958	関電トンネル(大町トンネル) 開通(2月)。美女平から弥陀ヶ原まで道路開通(9月)
昭和35年	1960	立山・黒部・有峰地区の 一大循環ルート を完成すべきとの社会的要請が高まり、富山県観光事業審議会(当時)において、「立山黒部有峰地帯観光開発計画」を策定(3月) 同計画に基づき、千寿ヶ原～長野県大町間を一貫する交通路開設の調査・建設・経営を目的として、富山県、立山開発鉄道、北陸電力、関西電力の4者により、 立山黒部有峰開発株 (TKA)を設立(5月) 有峰ダム完成(8月)
昭和38年	1963	黒部ダム完成(6月)
昭和39年	1964	立山高原バスが美女平～室堂間の直通運行開始(6月) 関電トンネルトロリーバス(扇沢～黒部ダム)の営業開始(8月) 室堂～黒部ダム間のルート整備を分担するため、富山県、立山開発鉄道、北陸電力、関西電力等の出資により、 立山黒部貫光株 (TKK)を設立(12月)

2. 立山黒部の概略（2）歴史③

年号	西暦	出来事
昭和46年	1971	アルペンルート全線開通(6月) 関西電力の子会社として黒部峡谷鉄道(株)が設立され、営業運転開始(7月)
昭和47年	1972	室堂ターミナルビル完成(8月)、ホテル立山営業開始(9月)
平成8年	1996	立山トンネルバスをトロリーバスに転換 「布橋灌頂会」を約130年ぶりに開催
平成10年	1998	立山高原バスにハイブリッド車の導入を開始
平成21年	2009	白岩堰堤砂防施設が、国重要文化財に指定
平成33年	2021	アルペンルート全線開通50周年

2. 立山黒部の概略 (3) 環境保全の取り組み

(規制関係)

○ 富山県は全国に先駆けてマイカー規制を実施

(S46～アルペンルート開業当初から)

・立山有料道路におけるバス排出ガスの影響
 通行するバスのうち約4割がNOX・PM法不適合
 沿道の植生への影響を調査



沿道の植物の病変 (クロロシス)



○ バスの排出ガス規制を実施

H26.6自然環境保全のための排出ガス規制としては**全国初**となる「立山におけるバスの排出ガスの規制に関する条例」を制定 (H27.4施行)



E~SORAバス

(保全の取り組み)

○ ライチョウ保護の取り組み

- ・第1次とやまのライチョウサポート隊の設置
- ・ライチョウ見守りネットの構築
- ・立山ライチョウ生態調査 など



安定的に生息している立山のライチョウ

		S50年代	H10年代
ライチョウの生息数	県内	1,300羽	1,300羽
	全国	3,000羽	2,000羽

○ その他の取り組み

- ・とやまの山岳環境整備ボランティア
- ・外来植物除去活動 等



とやまの山岳環境整備ボランティア

(事業者の取り組み例)

○ 一般廃棄物の減少の取り組み

- ・平地での食品一次加工による、現地でのゴミ減少化
- ・平地での昼食弁当箱の洗浄による、現地での排水削減



収集したゴミは平地で処理

○ 環境に優しい交通網整備の推進

乗り物	運行区間	開業年	動力源
立山ケーブルカー	立山駅～美女平	昭和29年開業	電気
立山高原バス	美女平～室堂	平成10年より導入	ハイブリッド・クリーンディーゼル
立山トンネルトロリーバス	室堂～大観峰	平成8年より導入	電気
立山ロープウェイ	大観峰～黒部平	昭和45年開業	電気
黒部ケーブルカー	大観峰～黒部平	昭和44年開業	電気
関電トロリーバス	黒部ダム～扇沢	昭和39年開業	電気



トロリーバス

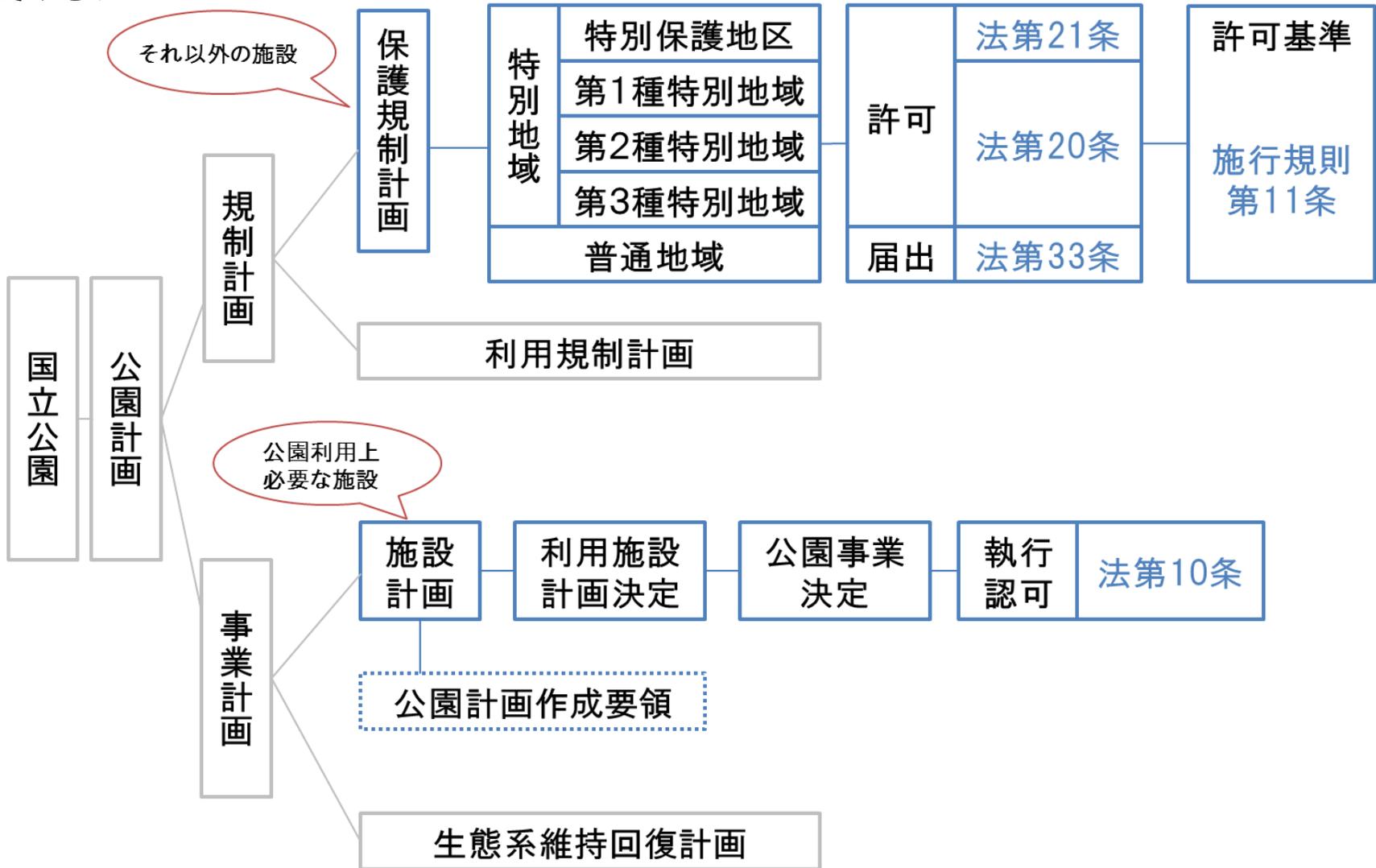
黒部峡谷・宇奈月



宇奈月温泉街を走る電気バス (EMU)

<参考> 自然公園法に基づく制約（概要）

○ 中部山岳国立公園は、国の風景を代表するにふさわしい傑出した自然の風景地として国立公園に指定されている。したがって、このような優れた自然の風景地を保護するため、主に自然公園法による制約を受ける。



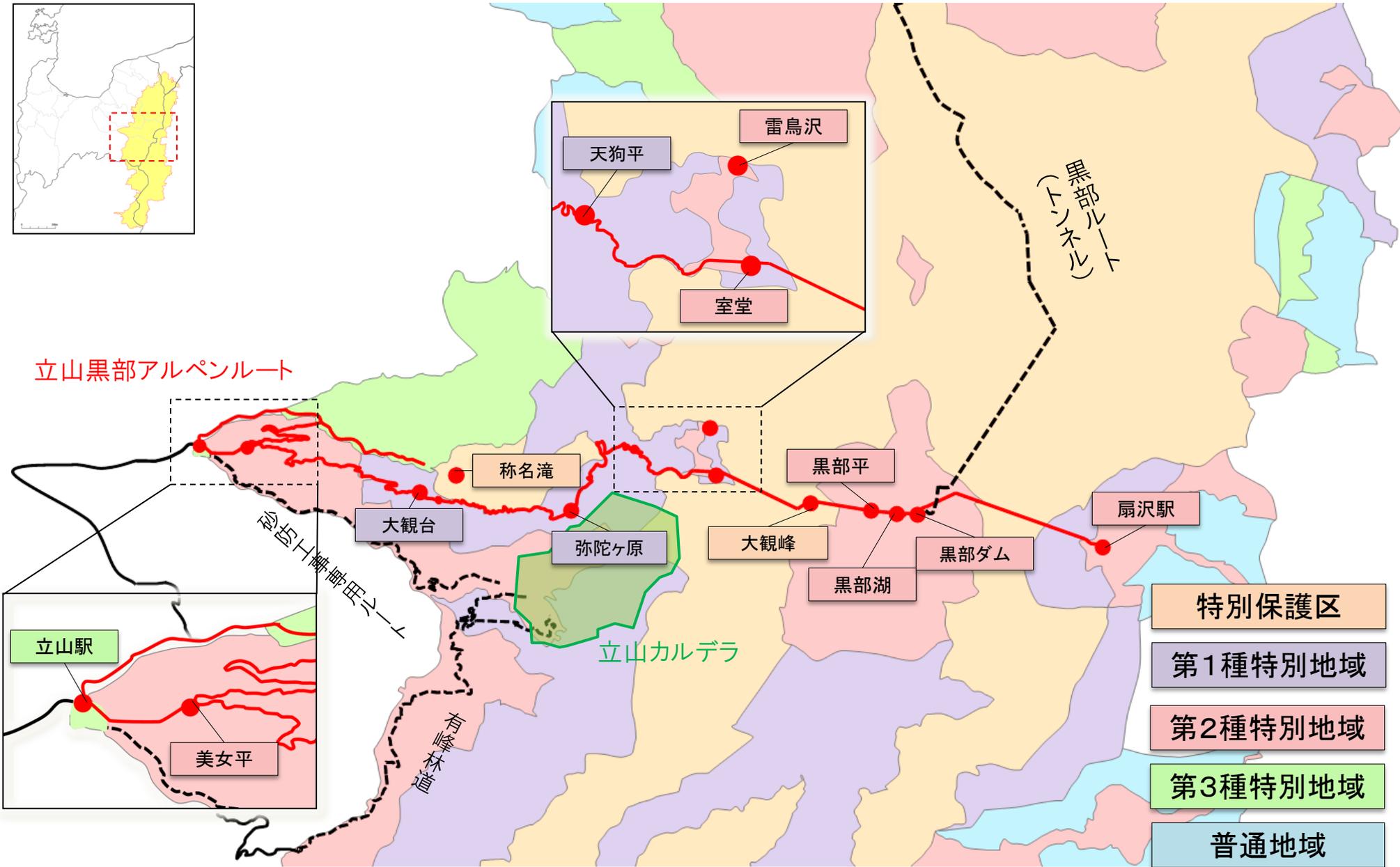
<参考> 規制計画における主な区域区分（概要）

地域区分		地域区分の定義	規制
特別地域	特別保護地区	特別地域内で特に嚴重に景観の維持を図る必要のある地区	許可制 (ただし、工作物の新築・改築・増築などは不可)
	第1種特別地域	特別保護地区に準ずる景観を有し、特別地域のうちでは風致を維持する必要性が最も高い地域であって、現在の景観を極力保護することが必要な地域	
	第2種特別地域	第1種特別地域及び第3種特別地域以外の地域であって、特に農林漁業活動についてはつとめて調整を図ることが必要な地域	許可制
	第3種特別地域	特別地域のうちでは風致を維持する必要性が比較的低い地域であって、特に通常の農林漁業活動については原則として風致の維持に影響を及ぼすおそれが少ない地域	
普通地域		特別地域以外の区域で、自然景観上特別地域と一体をなす地域内の集落地、農耕地、森林等であって、景観の維持を図る必要性は特別地域ほど高くはないが、風景の保護を図る必要がある地域、あるいは特別地域の保護又は利用上必要な地域	事前届出制

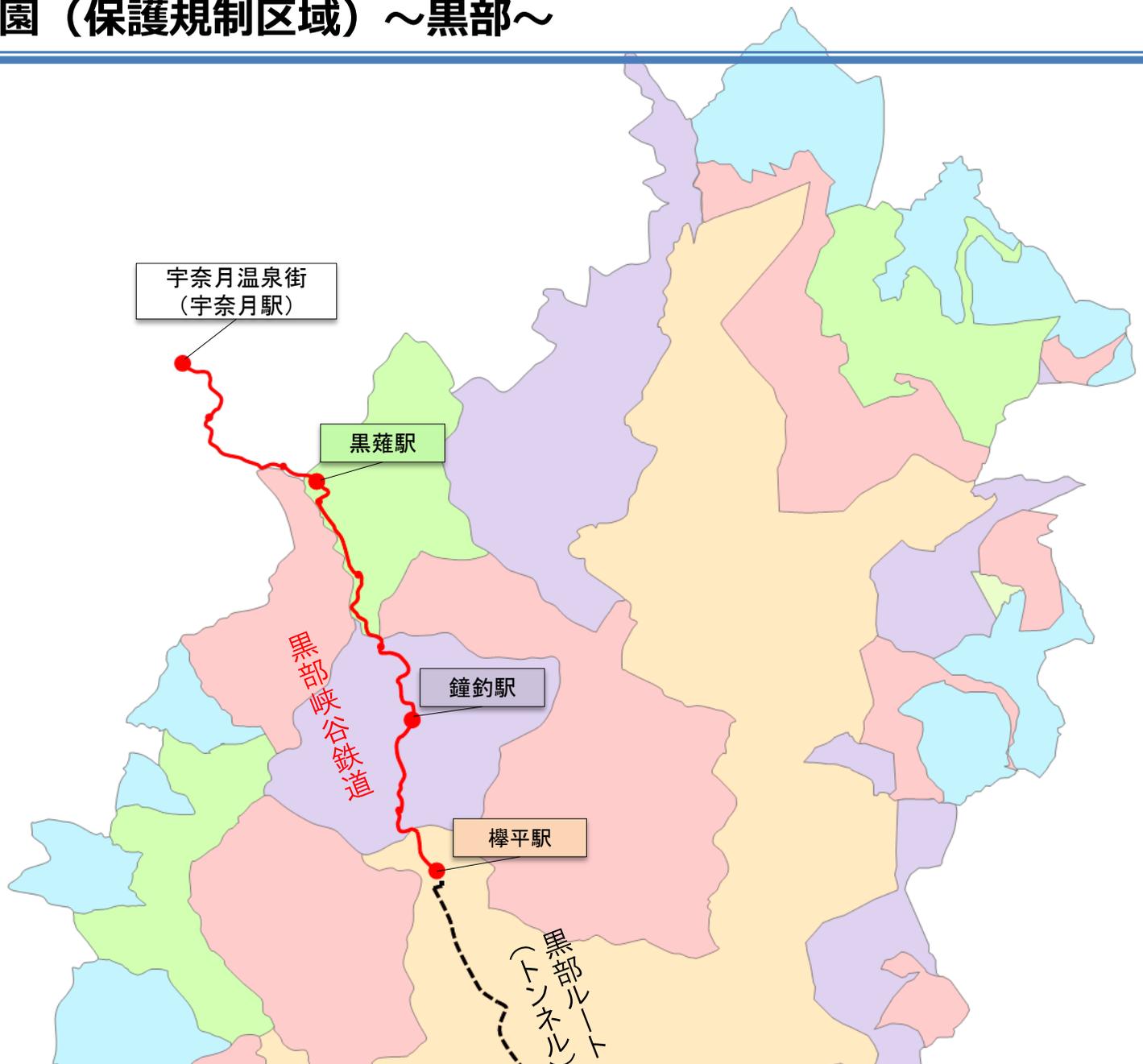
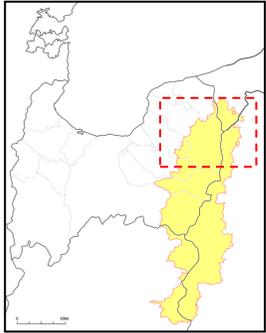
※それぞれの許可基準は、自然公園法施行規則で定められている。

※中部山岳国立公園の区域区分については10頁参照。

<参考> 中部山岳国立公園（保護規制区域）～立山～



<参考> 中部山岳国立公園（保護規制区域）～黒部～



- 特別保護区
- 第1種特別地域
- 第2種特別地域
- 第3種特別地域
- 普通地域

1. 本検討会の趣旨
2. 立山黒部の概略
- 3. 立山黒部の魅力**
4. 立山黒部の現状と課題
5. 今後のスケジュール

3. 立山黒部の魅力（1）雄大な自然 ～立山 四季の移ろい～

春



雪の大谷

秋



夏



みくりが池

冬



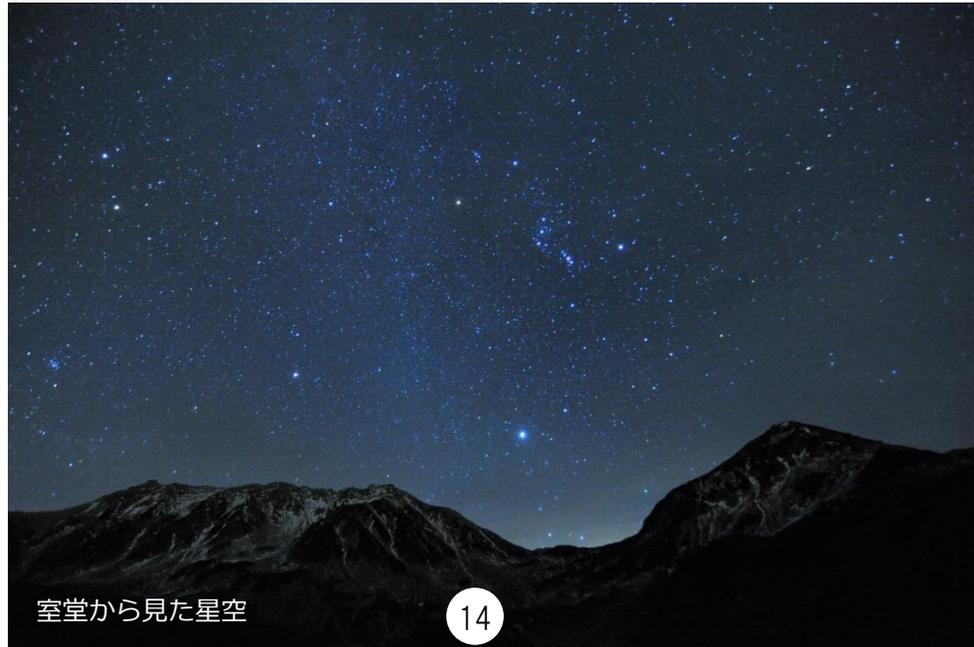
3. 立山黒部の魅力（1）雄大な自然 ～立山 時間の移ろい～



室堂から見たご来光



夕方の雲海



室堂から見た星空

3. 立山黒部の魅力（1）雄大な自然 ～立山 自然が生み出した特異な地形～

称名滝



落差日本一（約350m）

弥陀ヶ原湿原



立山弥陀ヶ原・大日平がラムサール条約に登録（H24.7）

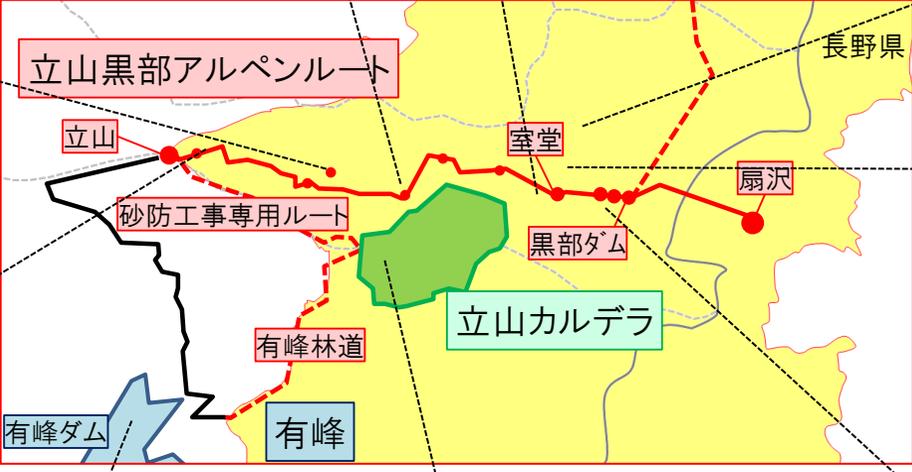
室堂



劔岳



美女平



雷鳥沢



有峰



立山カルデラ



氷河



立山に国内初の氷河（富山県立山カルデラ砂防博物館の調査により発見され、H24年に認定）

3. 立山黒部の魅力 (1) 雄大な自然 ~立山 植生の多様性~



美女平



タテヤマスギ



ダケカンバ

美女平



弥陀ヶ原温泉



タデヤマリンドウ



ゼンテイカ

弥陀ヶ原



室堂



クルマユリ



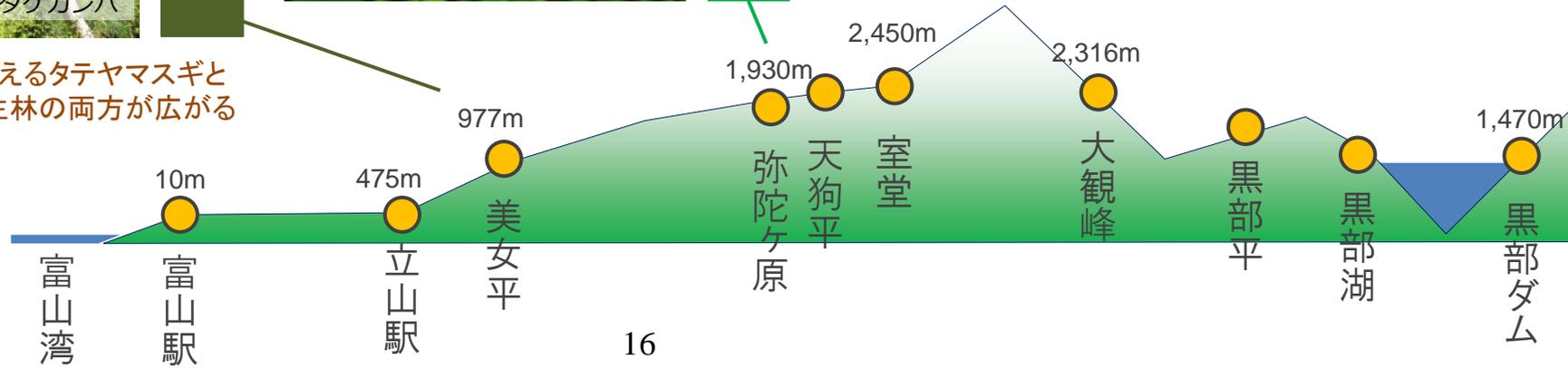
クロユリ



コバイケイソウ

室堂

☆ 樹齢1,000年を超えるタテヤマスギとブナの巨木の原生林の両方が広がる



3. 立山黒部の魅力（1）雄大な自然 ～黒部峡谷 四季の移ろい～

春



新柳河原発電所

秋



新山彦橋

夏



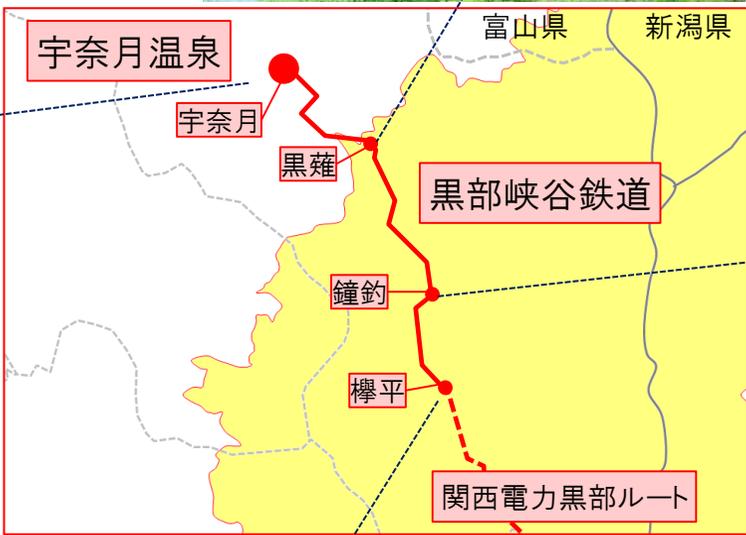
小屋平

冬

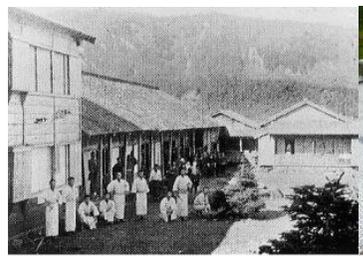
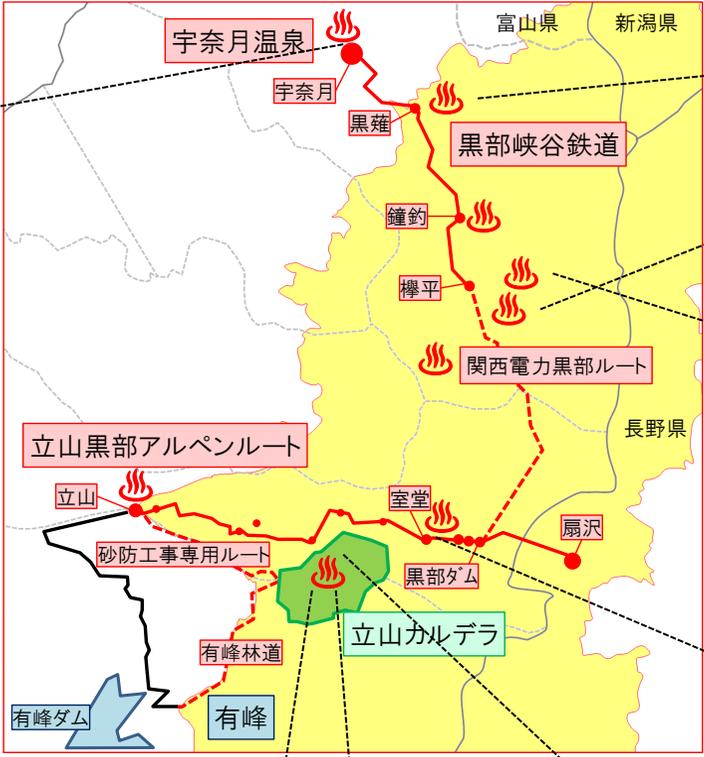


宇奈月温泉街

3. 立山黒部の魅力 (1) 雄大な自然 ~黒部峡谷~



3. 立山黒部の魅力 (1) 雄大な自然 ~温泉~



かつて湯治客や登山客で賑わった立山温泉跡地

100℃近い温度で噴出する噴泉

推定地下温度が150℃以上の温泉が多数存在

3. 立山黒部の魅力（2）文化（立山信仰）～自然への畏敬～

（立山信仰）

古くから立山は、富士山や白山と並ぶ「日本三霊山」の一つとして山岳信仰の対象であった

- ・平安時代に『今昔物語集』で紹介され、「地獄のある山」として全国に広く知れ渡った
- ・江戸時代の最盛期には、ひと夏で6,000人が登拝

女性は山に登ることを許されなかったため、女人救済儀式である「布橋灌頂会」が秋の彼岸中日に行われた



「雄山神社」

霊峰立山を神の山として祀る神社
立山・芦峯・岩峯の三社殿で構成



「布橋灌頂会」

女性だけが参加することのできる行事として9月に開催（現在は3年に1度復元イベントを開催）
※明治に廃止されたが、平成8年に復活



「立山曼荼羅」

立山信仰を布教する際に、絵解き用として使用された宗教絵画。開山縁起、立山地獄、立山浄土などが描かれている



「立山博物館」

山岳信仰をテーマに展示・紹介する博物館は、全国的にも珍しい



「教算坊」

芦峯寺の三十三の宿坊の一つ。整備された日本庭園では四季の移ろいを楽しめる



地獄谷

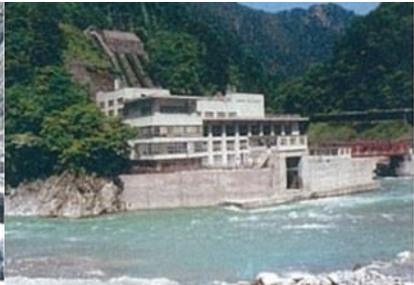
「各地に残る伝説、名所」

地獄思想にかかわる名所
地獄谷、餓鬼の田、みくりが池、劔岳 など

3. 立山黒部の魅力（3）産業（電源開発）～自然との共存、自然を活かす～



出し平ダム



黒部川第二発電所



黒部川第三発電所



黒部ダム（関西電力）

黒部ダムの観光放水（6月中旬～10月中旬）



黒部峡谷鉄道トロッコ電車

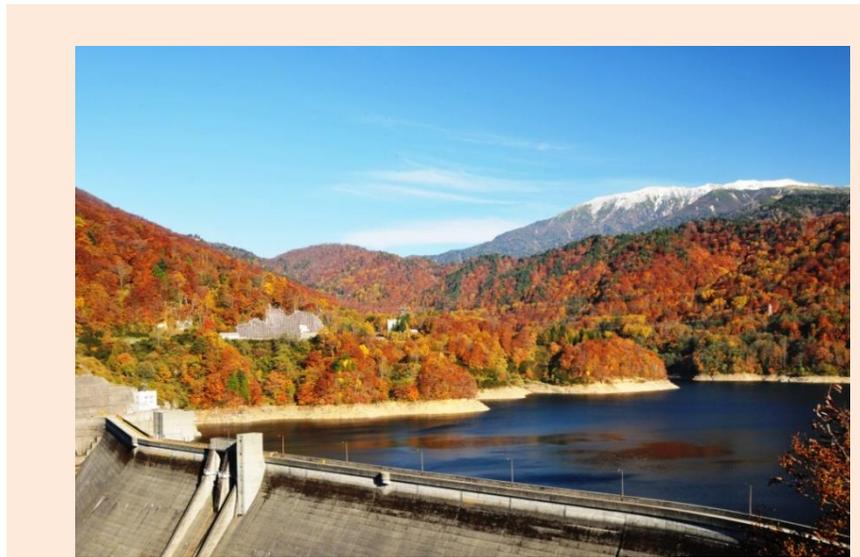


黒部ダム建設時の様子



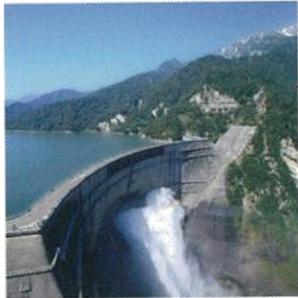
「安全を保証しません」と書かれた観光客向けの切符 (昭和20年頃)

(出所)関西電力(株) HP



有峰ダム（北陸電力）

<参考> 黒部川流域の水力発電所



黒部ダム



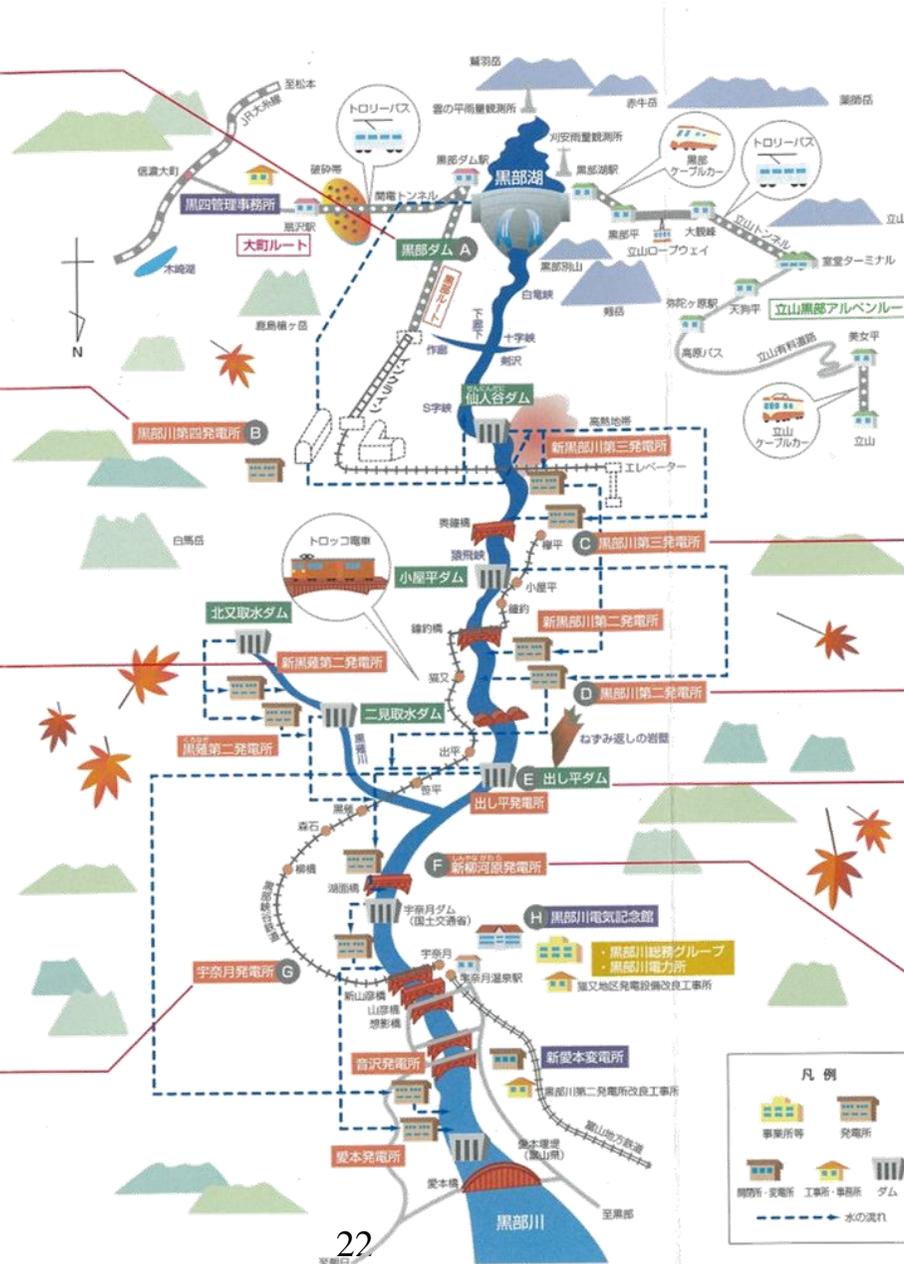
黒部川第四発電所



新黒部第二発電所



宇奈月発電所



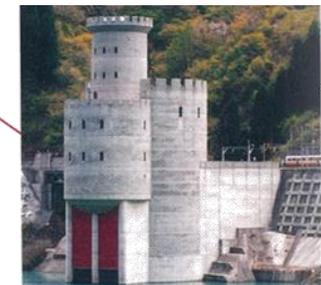
黒部川第三発電所



黒部川第二発電所



出し平ダム

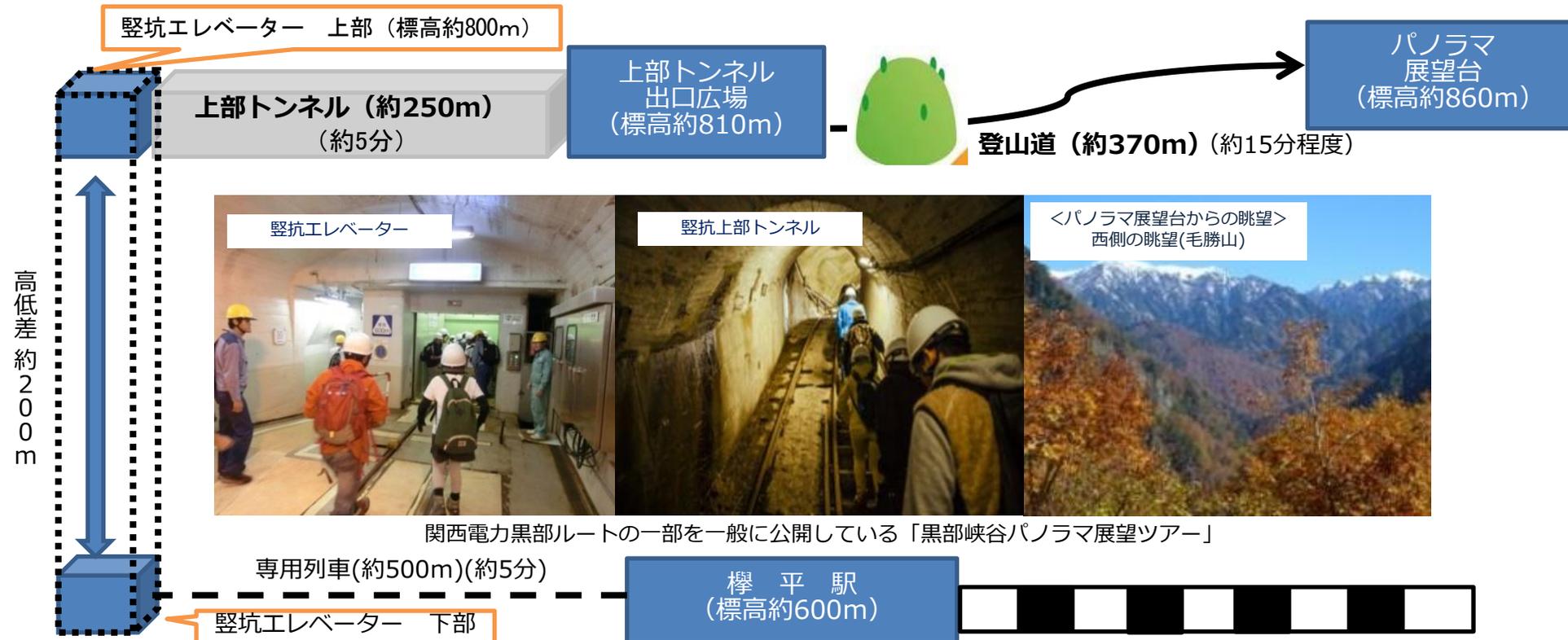


新柳河原発電所

(出所)関西電力㈱資料をもとに作成

<参考> 産業観光の取り組み（黒部峡谷パノラマ展望ツアー）

関西電力の**竖坑エレベーター**を利用し、新たにパノラマ展望台とそこに至る登山道を整備
 パノラマ展望台では、**後立山連峰（唐松岳、白馬鑓ヶ岳）**など**360度の眺望**を楽しめる



関西電力黒部ルートの一部を一般に公開している「黒部峡谷パノラマ展望ツアー」

○ 「榎平パノラマ新周遊ルート」を活用した観光商品

- ・ H28年6月3日から11月14日まで、**1日4便（1便あたりの定員53名）**で運行
 料金 大人 5,000円、こども（小学5年生以上） 3,200円
- ・ H27年度実績：**12,383人**（H27年5月29日～11月30日）

3. 立山黒部の魅力 (3) 産業 (砂防) ~世界文化遺産登録の取組み~

防災とエコ ... 「立山黒部」を世界文化遺産へ

「白岩堰堤砂防施設」【着工:1929年 竣工:1939年】

重要文化財指定 (2009年6月30日)
砂防施設では日本初

○「砂防の父」赤木正雄博士による常願寺川水系の根幹の砂防施設
○本堰堤の高さ63m、副堰堤をあわせた総落差108mはいずれも日本一でかつ世界有数の高さを誇る

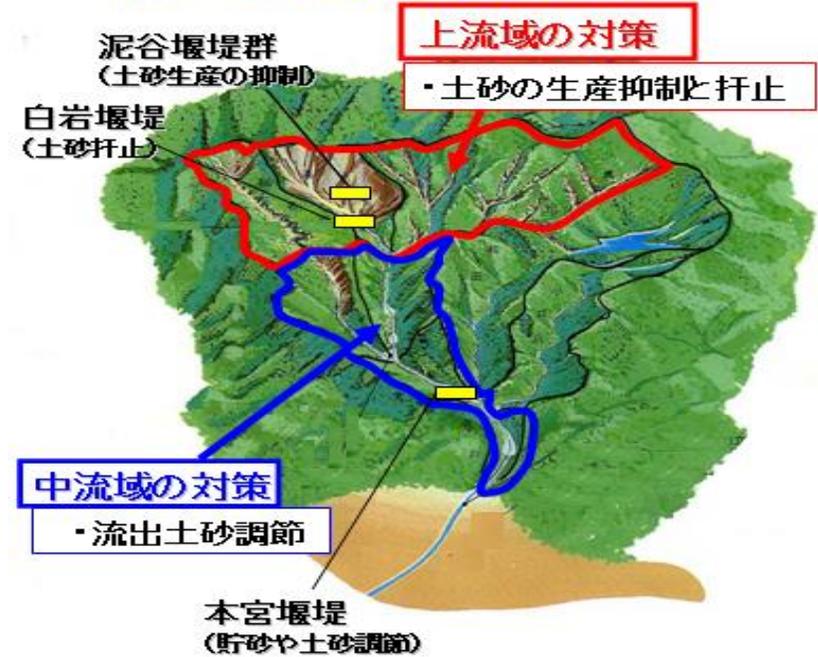


世界遺産登録推進
国際フォーラム2014
(2014.11.3)

○アルフレッド・ルイス・コンティ氏
(イコモス副会長)
「立山砂防は人間の創造的才能を表わす傑作。暫定一覧表には、類似例はない。」

マルガレータ・ワルストロム氏
(国連事務総長特別代表(防災担当))
環境に配慮し、100年にわたり下流の住民を自然災害から守る取り組みを大きく評価 (2015.8.27)

水系一貫の総合的砂防システム



本宮堰堤(国登録有形文化財)

泥谷砂防堰堤群(国登録有形文化財)

2018 INTERPREVENT TOYAMA JAPAN (国際防災学会)

2018年10月 富山県で開催!

立山砂防の顕著な普遍的価値をアピール。
内外の専門家350人(うち海外150人)が参加見込み

世界遺産登録推進シンポジウム2015 (2015.11.3)
○松浦 晃一郎氏(前ユネスコ事務局長)
「立山砂防は自然と共生し、洪水対策として機能している。世界に誇れるものであり、世界遺産に登録し誇るべきものだ。」

<参考> 立山カルデラ砂防体験学習会（概要）

○立山駅から立山カルデラまでの、砂防工事専用トロッコを利用したルートが存在
現在は、年40回程度の体験学習会の際のみ一般公開

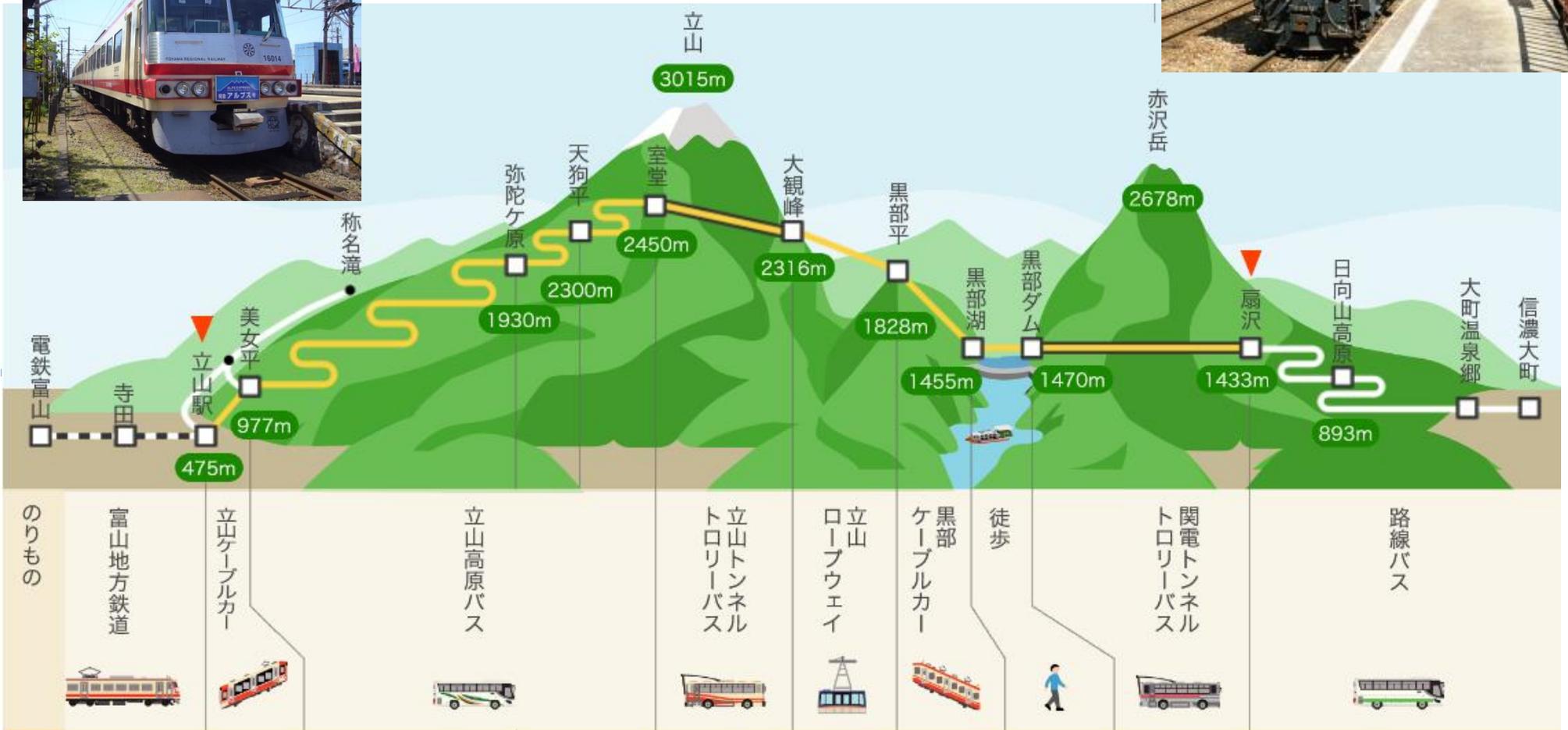
○学習会の概要

- ・ 公募枠 **1,960**名（H28年度）
- ・ 開催日 **平日**のみ
- ・ 参加費 大人 2,000円
小学生1,000円



3. 立山黒部の魅力（４）アクセス ～気軽に訪れることができる山岳観光地～

- 富山駅から室堂まで 約2時間30分
富山駅から黒部ダムまで 約3時間30分
- 黒部宇奈月温泉駅から檜平まで 約2時間

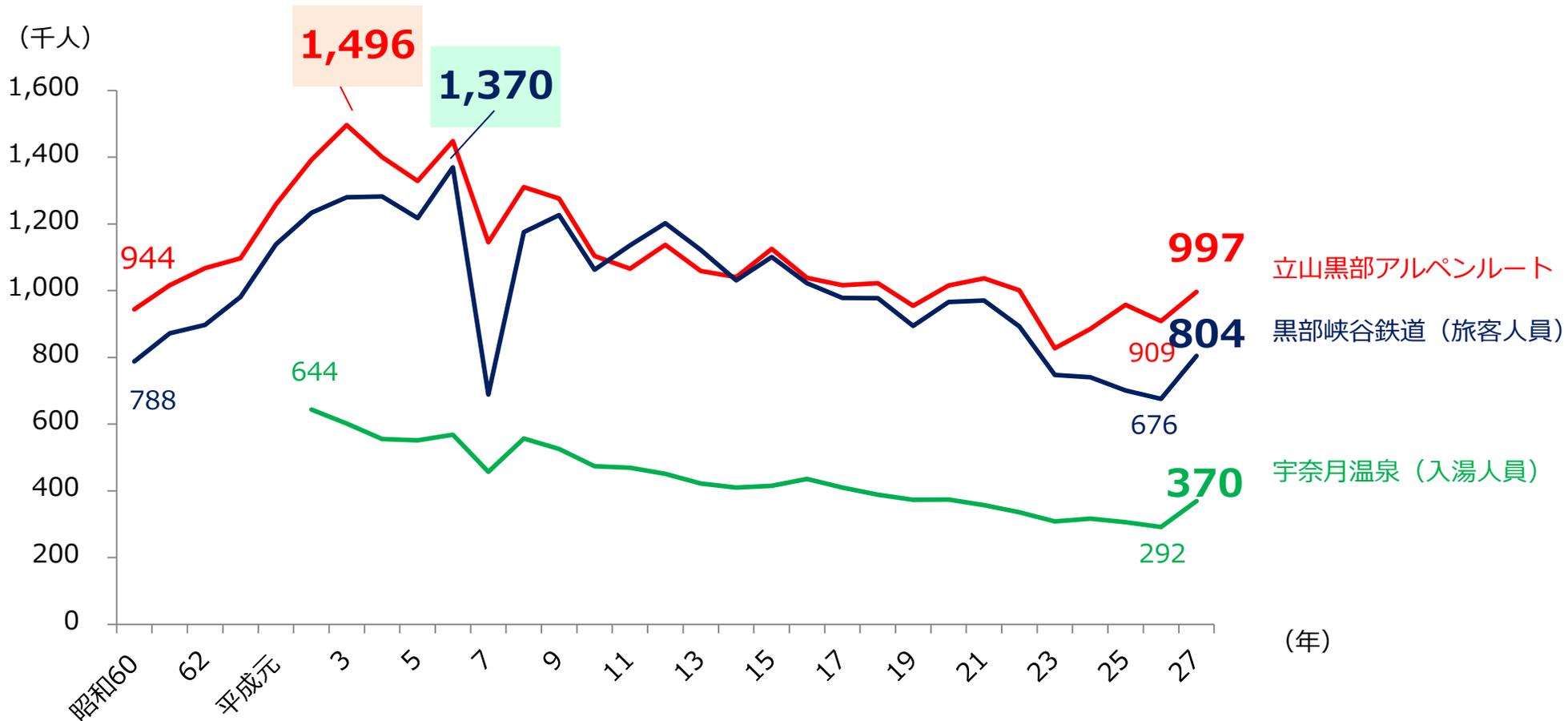


1. 本検討会の趣旨
2. 立山黒部の概略
3. 立山黒部の魅力
- 4. 立山黒部の現状と課題**
5. 今後のスケジュール

4. 立山黒部の現状と課題 (1) 現状 ①年間入込数の推移

○年間入込数のピーク
 ・立山黒部アルペンルート 平成3年 1,496千人
 ・黒部峡谷鉄道 平成6年 1,370千人

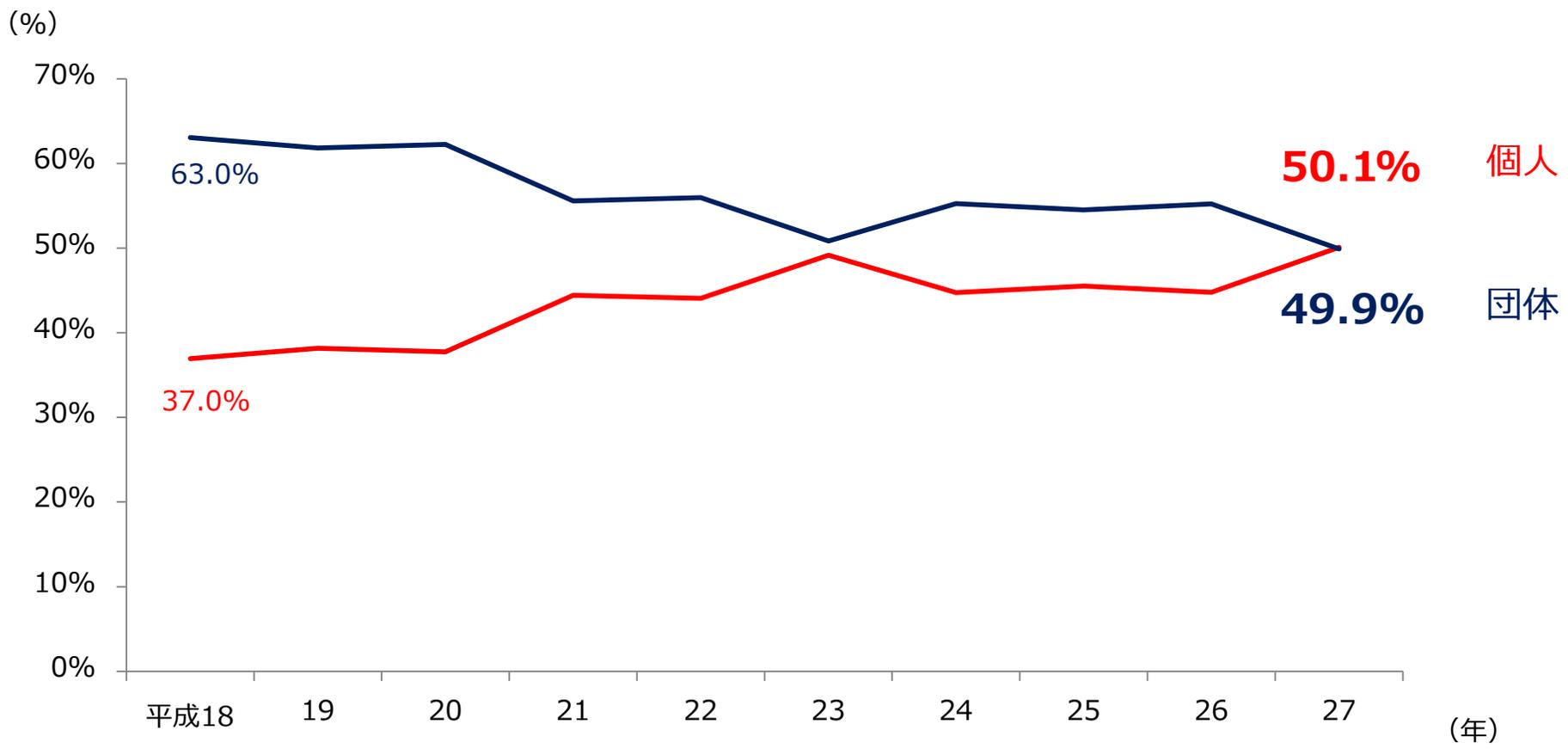
年間入込数の推移 立山黒部



4. 立山黒部の現状と課題 (1) 現状 ②個人・団体旅行者比率の推移

個人化が進んでいる

個人・団体旅行者比率の推移 立山黒部アルペンルート

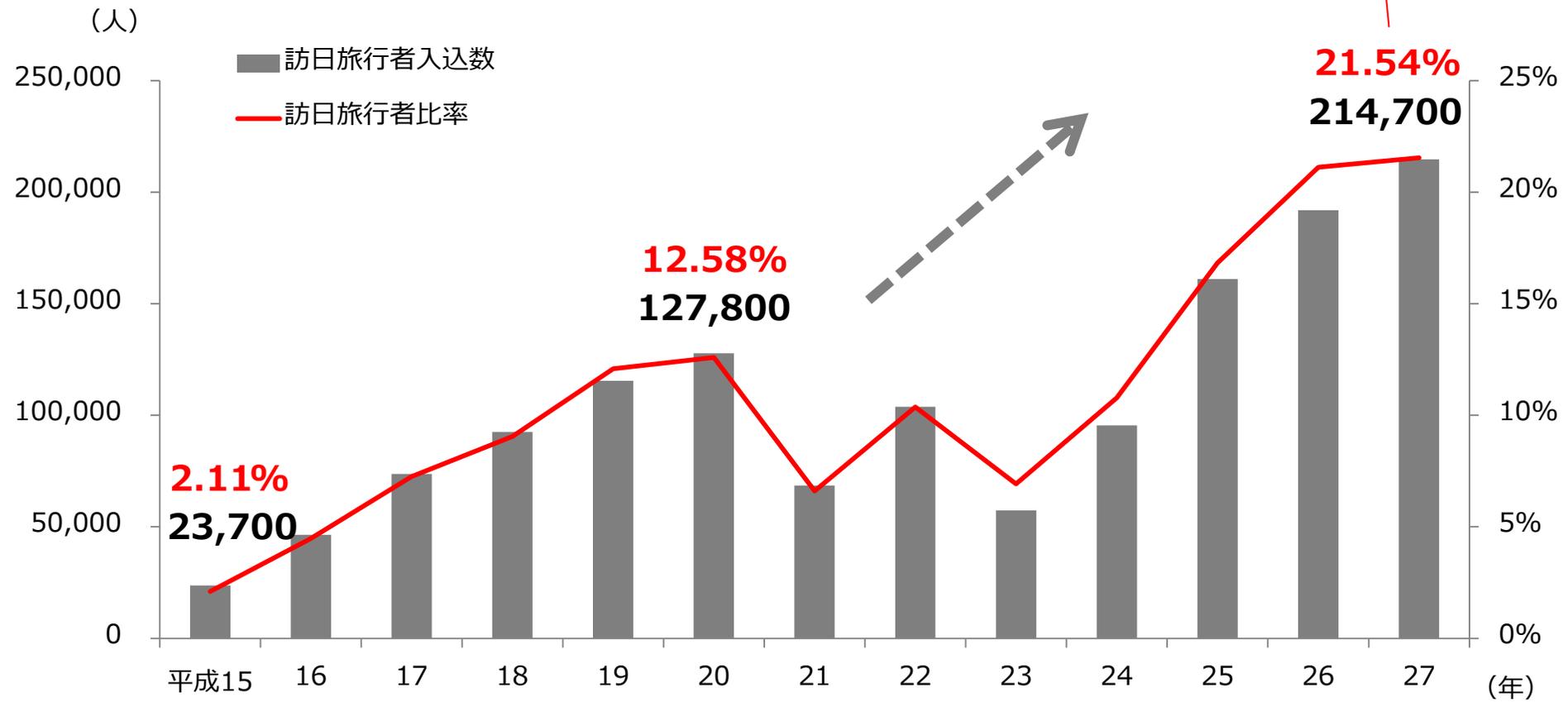


4. 立山黒部の現状と課題 (1) 現状 ③訪日旅行者 入込数・比率

訪日旅行者 入込数・比率ともに増加

訪日旅行者（入込数、比率）の推移 立山黒部アルペンルート

訪日旅行者入込数
平成15年に比べて **9.1倍**



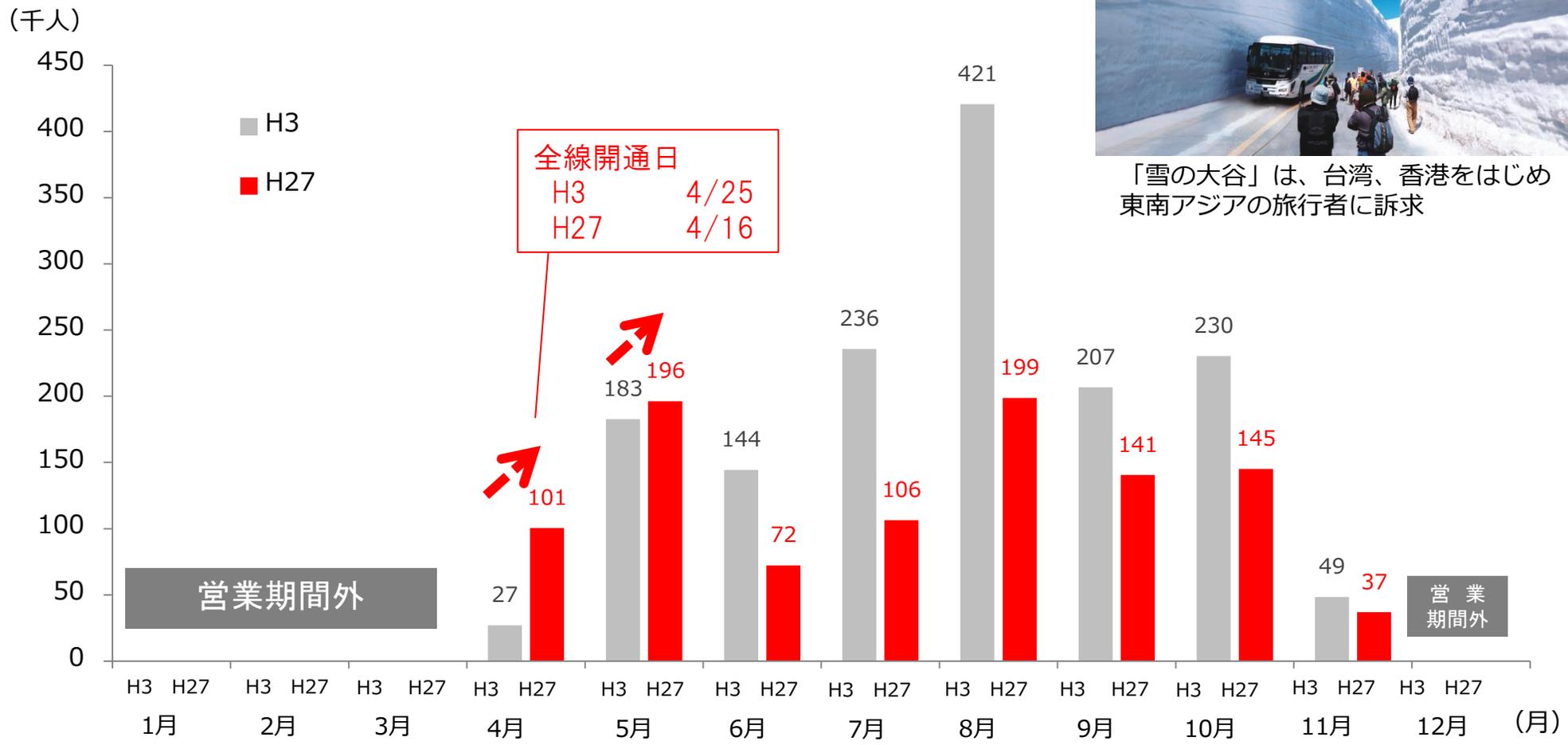
4. 立山黒部の現状と課題 (1) 現状 ④月別入込数 立山黒部アルペンルート

- ・平成3年と比べると、春の入込数は増加、6月以降の入込数は減少
- ・平成27年の入込数のピークは5月、8月



「雪の大谷」は、台湾、香港をはじめ東南アジアの旅行者に訴求

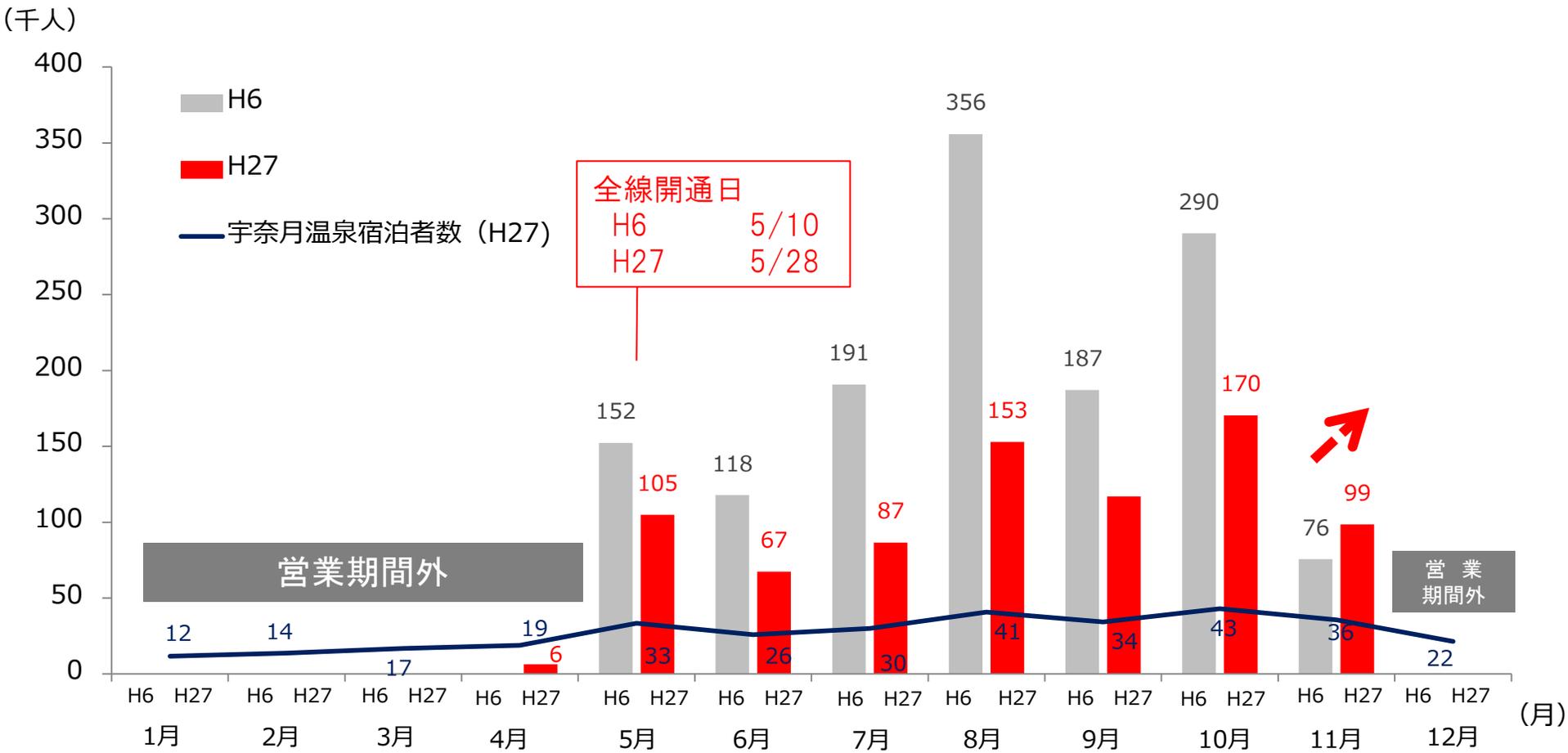
月別入込数 立山黒部アルペンルート



4. 立山黒部の現状と課題 (1) 現状 ④月別入込数 黒部峡谷鉄道

- ・平成6年と比べると、全体として入込数は減少、ただし11月のみ増加
- ・平成27年の入込数のピークは5月、8月、10月
- ・黒部峡谷鉄道の営業期間外は、宇奈月温泉の入込が落ち込む

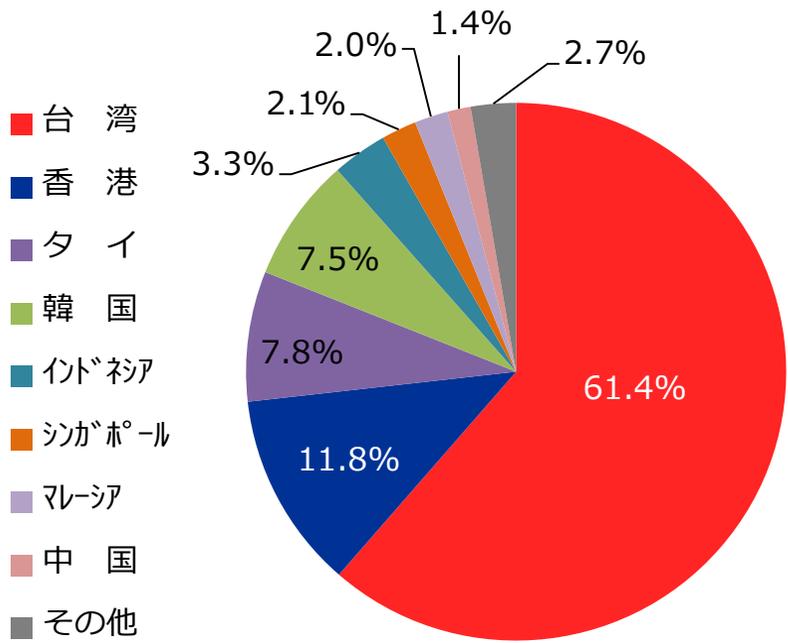
月別入込数 黒部峡谷鉄道



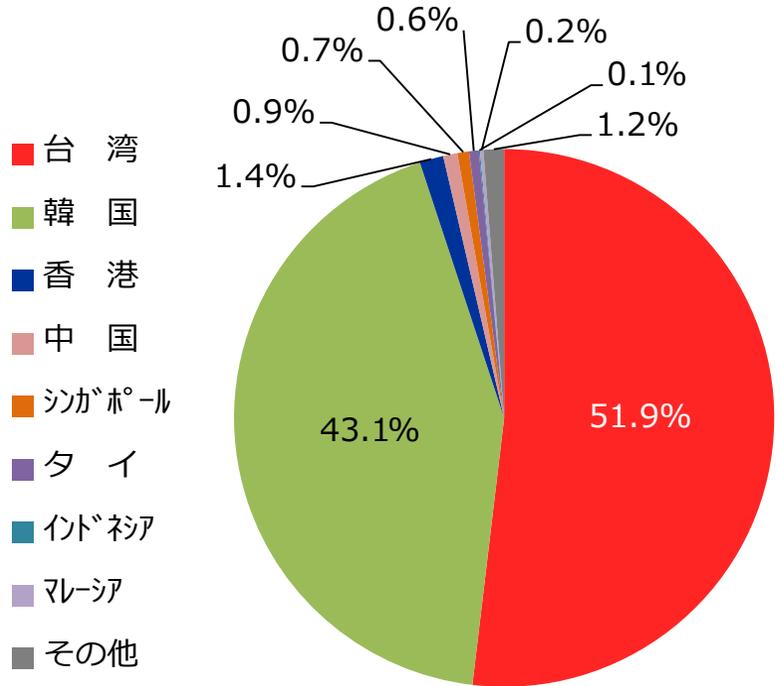
4. 立山黒部の現状と課題 (1) 現状 ⑤ 訪日旅行者の内訳

台湾、香港、タイ、韓国からの旅行者が多い

立山黒部アルペンルート
平成27年 214,700人



黒部峡谷鉄道
平成27年 20,562人



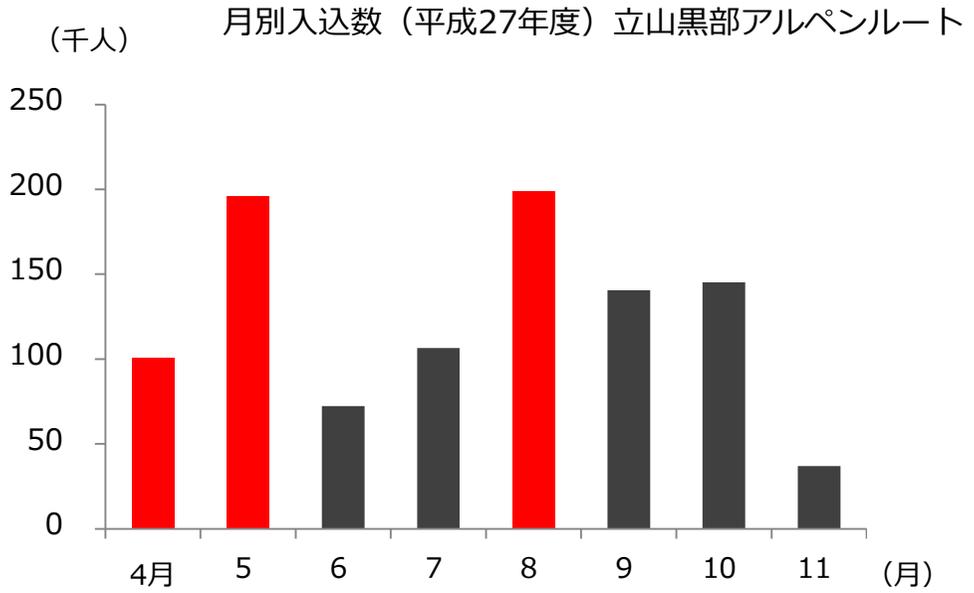
4. 立山黒部の現状と課題 (2) 混雑対応 ①混雑の時期

アルペンルートでは、雪の大谷(特にGW)、夏休みに混雑発生

- ・ 開業時(平成27年は4月16日)には、電鉄富山駅に早朝から個人旅行者の長蛇の列
- ・ 立山駅では、自家用車で訪れ(立山駅周辺で駐車)、ケーブルカーの当日券を買い求める観光客で混雑
 - … 2~3時間の待ち時間発生
 - … 午前の早い時間で乗車券が売り切れ
- ・ ケブルカーやロープウェイなどの車内が混み合い、景観を十分に楽しめない。
- ・ 休憩場所(ベンチなど)、トイレ、食事スペースが不足



アルペンルート開業日の電鉄富山駅
(平成28年4月16日 AM 5:30頃)

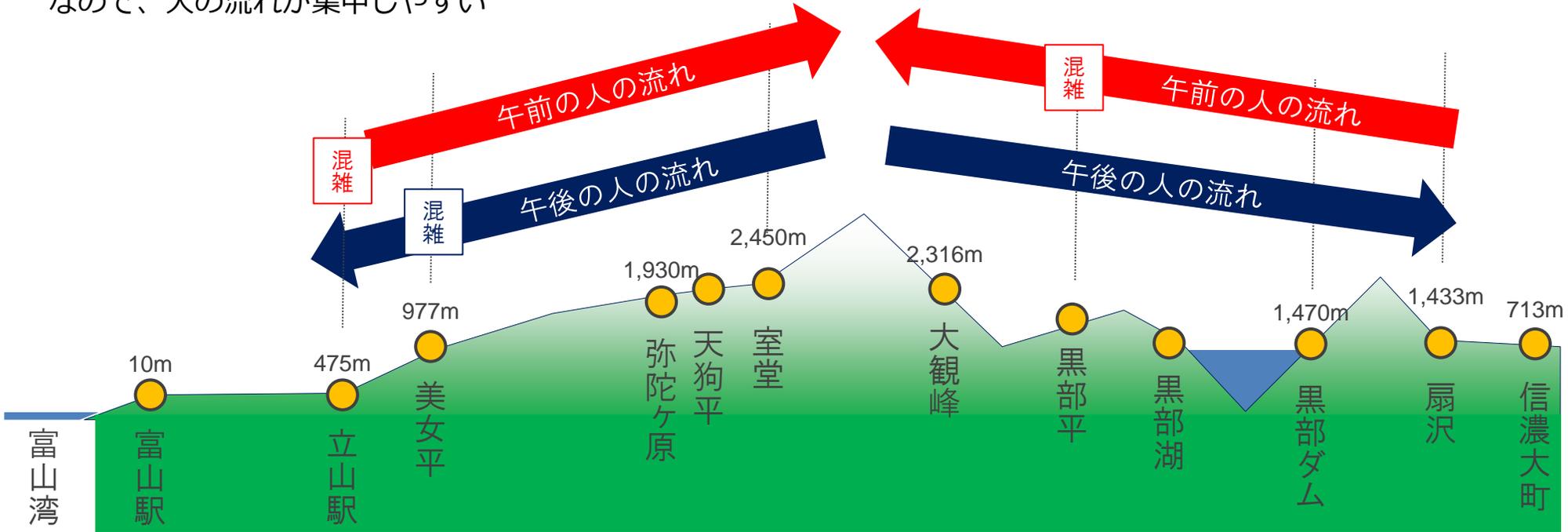


「山の日」の立山駅(平成28年8月11日)

4. 立山黒部の現状と課題 (2) 混雑対応 ②混雑の時間帯

往路は朝、復路は夕方に混雑が発生

- 立山ケーブルカー及びロープウェイの輸送能力が限られているため、朝は立山駅・黒部平で混雑が発生
- ゲートウェイは、アルペンルートは立山駅及び扇沢の2箇所、黒部峡谷鉄道は宇奈月駅の1箇所のみなので、人の流れが集中しやすい



区間	立山駅－美女平	美女平－室堂	室堂－大観峰	大観峰－黒部平	黒部平－黒部湖	黒部湖－黒部ダム	黒部ダム－扇沢
移動手段	ケーブルカー 	高原バス 	トローリーバス 	ロープウェイ 	ケーブルカー 	徒歩 	トローリーバス 
移動時間 (min)	7	50	10	7	5	15	16
片道の輸送力 (人/時)	700人	1,200人	850人	700人	1,000人		1,200人

4. 立山黒部の現状と課題（3）魅力の掘り起こし

- ・立山エリア：6～7月、11月の誘客が課題
- ・黒部エリア：6～7月、冬季の誘客が課題

立山黒部には、1年を通して魅力的な観光素材が多い



黒部ダムの観光放水
(6月中旬～10月中旬)



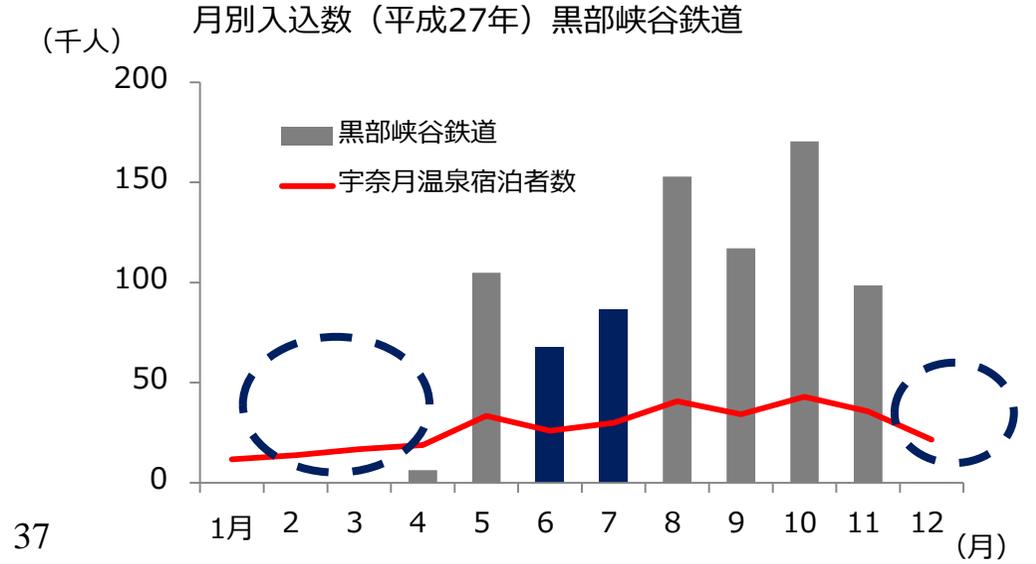
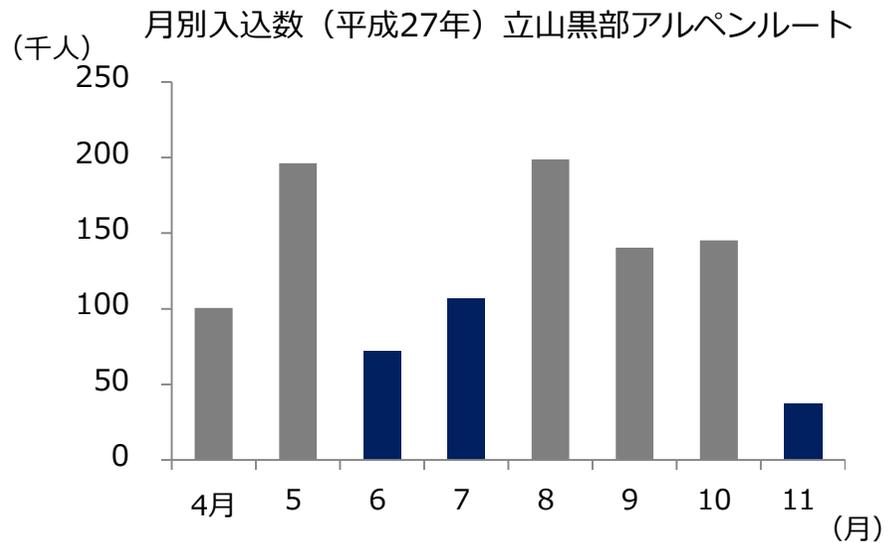
弥陀ヶ原のハイキング



新緑の黒部川



宇奈月温泉郷の雪景色



4. 立山黒部の現状と課題 (4) 滞在環境の充実

県内での滞在時間や消費金額は、全国に比べてやや低い

富山県内での滞在時間

	到着時間	出発時間
富山県	14:23	13:11
全国平均	14:02	13:41
滞在時間差	0:21	0:30

【現地滞在時間の全国平均との差】
 H27年度 **50分**
 H26年度 1時間31分
 ※算出方法が見直され単純比較はできない



山岳リゾート (スイスツェルマット)

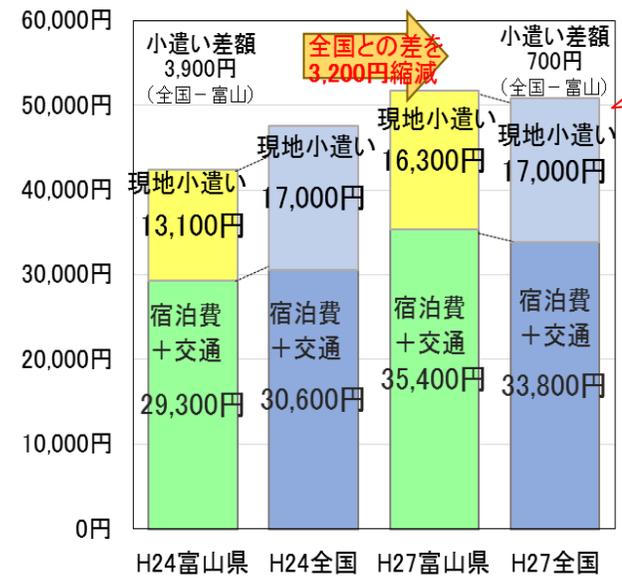
(出所)スイス・ツェルマット観光局 HP



グランピング (星のや富士)

(出所)㈱星野リゾート HP

宿泊旅行 1 回あたりにかかった費用



【現地小遣い額】
 H27年度 **16,300円**(全国との差 **700円**)
 H26年度 13,500円 (全国との差 2,900円)
 H24年度 13,100円 (全国との差 3,900円)



星空観察会



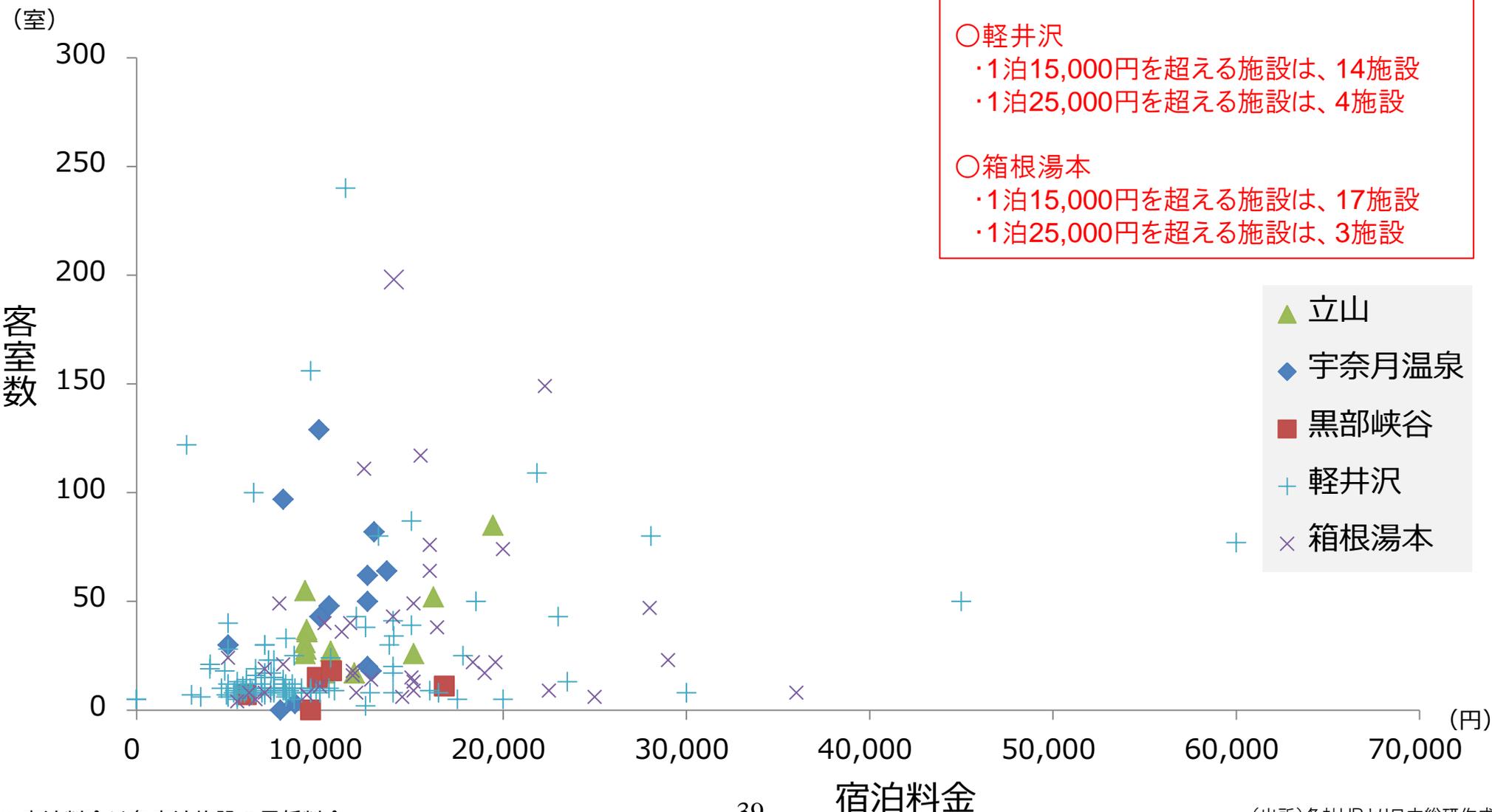
キャニオニング

(出所)じゃらん宿泊旅行調査2016

<参考> 宿泊施設

【宿泊施設の客室数・宿泊料金(軽井沢・箱根湯本との比較)】

- 立山黒部
 - ・1泊15,000円を超える施設は、4施設
 - ・1泊25,000円を超える施設は無い
- 軽井沢
 - ・1泊15,000円を超える施設は、14施設
 - ・1泊25,000円を超える施設は、4施設
- 箱根湯本
 - ・1泊15,000円を超える施設は、17施設
 - ・1泊25,000円を超える施設は、3施設

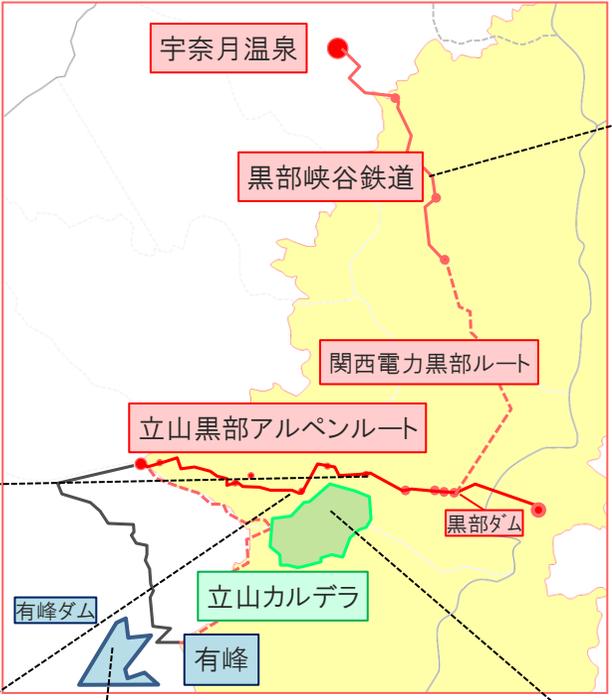


※宿泊料金は各宿泊施設の最低料金

4. 立山黒部の現状と課題 (5) エリア内の周遊促進①

アルペンルート、黒部峡谷、有峰は、それぞれが特有の自然景観や魅力を有するが、周遊することは困難

- ・ 同ルートでの「往復乗車」となりがちで、復路の満足度が低下
「乗り物ばかりの行程になり、お客様が不満を示すことがあるので、アルペンルートとトロッコ電車の両方をツアーに組み入れることは避けている」 (香港の旅行会社)



黒部峡谷



室堂



弥陀ヶ原



有峰



立山カルデラ

4. 立山黒部の現状と課題 (5) エリア内の周遊促進②

- 立山山麓を例にとっても、同エリアは魅力的な観光素材を有するが、認知度向上やアクセス改善が課題
- 宇奈月駅に多くの観光バスが乗り入れるが、温泉街は素通り
⇒ 温泉街の魅力アップ、年間を通じた賑わいづくりが必要

<立山山麓>



富山県 [立山博物館] 及び同博物館 教算坊 (宿坊)



称名滝まで1km以上続く坂道を、車椅子を押しながら歩む旅行者



称名滝

<宇奈月温泉>



トロツコ電車の乗客の温泉街への誘導が課題



道幅が狭く、安全性の確保が課題

4. 立山黒部の現状と課題 (6) 新規市場の開拓・個人旅行者への対応

台湾、香港、タイ、韓国など特定の国・地域への依存度が高い

- ・ 欧米、豪州などの新規市場における認知度向上、誘客が課題
- ・ 国内外からの個人旅行者増加に対応したさらなる利便性向上が必要



山岳スキー



アルペンルート ケーブルカー乗り場



WEB予約、WEB精算



富山地方鉄道宇奈月温泉駅 入り口

4. 立山黒部の現状と課題（7）環境保全の推進

環境負荷に伴う自然環境への影響が懸念

- バスや観光客等が持ち込む外来植物により、在来植生が脅かされており、ボランティアによる除去活動が行われているが、完全な除去は困難なうえ、さらに新種の侵入も確認されている。
- 積雪期のスキー客等の雷鳥沢キャンプ場の利用について、トイレが閉鎖されていることから、携帯トイレの携行を呼掛けているがあまり利用されていない。
(人間のし尿に含まれる大腸菌等によるライチョウや植生への影響が懸念される。)
- 外国人観光客の増加に伴い、植生への踏み込みやゴミの散乱が見受けられる。
(ゴミを求めてカラスなどが飛来し、生態系に大きな影響を及ぼす恐れがある。)
- ソロテン（1人1テント）の増加により、山の日やシルバーウィークなどピーク時にキャンプ場が不足し、指定場所以外での幕営が見られる。
- 観光バスの増加に伴い、アルペンルート沿線の植生への影響が懸念される。



立山高原ホテル下部斜面に侵入したシロツメクサ



ボランティアによる外来植物除去活動



積雪期の雷鳥沢キャンプ場（トイレ使用不可）



積雪期のライチョウ

4. 立山黒部の現状と課題（8）適正利用の推進

安全で快適な適正利用のための環境整備が急務

- 木道や登山道の老朽化や軽装での入山により、スリップ事故等の遭難が発生している。
- 案内看板や道標が老朽化し、破損も多く見られる。また日本語表記のみであり、外国人対応（多言語）が遅れている。
- 環境配慮型の山岳トイレが整備されてきているが、依然旧式のトイレも多く、また、洋式化があまり進んでいない。
- 山岳スキーでの雪崩死亡事故が発生しており、「立山室堂山岳スキー等安全指導要綱」に基づき、引き続きスキーヤー等への適時的確な情報発信、注意喚起が必要である。（スキー場ではなく、あくまで冬山である）



老朽化した木道（スリップ事故多発）



老朽化し破損した道標



雪崩の発生状況（H25.11）真砂岳



室堂ターミナルでの入山指導



倒壊している看板



和式の汲取り式トイレ

雪崩死亡事故の発生状況

H17.11	死亡1人	
H19.4	死亡1人	重傷1人
H22.5	死亡1人	重傷1人
H22.11	死亡2人	重傷3人
H25.11	死亡7人	



積雪断面観測

1. 本検討会の趣旨
2. 立山黒部の概略
3. 立山黒部の魅力
4. 立山黒部の現状と課題
- 5. 今後のスケジュール**

5. 今後のスケジュール

- 本検討会の今後のスケジュールは、以下のとおり

11月13日（本日）

1月頃

3月頃～

第1回検討会

- 立山黒部の現状と課題の検討
- 意見交換

第2回検討会

- 論点、課題の整理
- 課題解決に向けた方針の検討（先進事例の紹介、取り組むべき事業の検討など）

第3～4回検討会

- 本検討会における議論の整理
- 短、中長期的なプロジェクト（案）のとりまとめ

